令和５年度 紫原小学校「学校だより」（NO.9）

つくしんぼ

Tel 251－1323　http://keinet.com/murasas

教育目標　夢と希望を持ち「自立」した紫原の子供を育てる
～あいさつ・掃除が確実にできる子供の育成～

発行日　令和６年１月24日
発行責任者　校長　川畑 敏彦

「自分の物差し」を作る　～フェアで生きる～

校長　川畑　敏彦

私は，昼休みに校長室の窓から子供たちが元気よく遊ぶ姿を見るのが大好きです。
先日も，２年生の子供たちがドッジボールをしているのを見ていました。まだ始めたばかりのドッジボール。上手に投げられる子供たちばかりではありません。最初，仲良く遊んでいた子供たちですが，次第にいざこざが始まります。ボールが取れなくて泣き出す子供，ボールの取り合いになっても絶対に譲らない子供，それを静観する子供など様々です。次の日，同じ場所で同じようにドッジボールが始まりました。ちょっと違ったのは，昨日ボールをとれなくて泣いていた子供が今日は泣いていません。自分からボールを捕ろうと一生懸命動いています。ボールの取り合いになったときも，昨日までは譲らなかった子供たちが「じゃんけん」という解決方法を見つけたようです。まだまだトラブルは多いですが，少し成長した子供たちの様子を見ることができ，微笑ましく思うことでした。

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」の著者ロバート・フルガムさんは，著書の中で「人間，どう生きるか，どのようにふるまい，どんな気持ちで日々を送ればいいか，本当に知っていなくてはならないことを，わたしは全部残らず幼稚園で教わった。人生に必要な知恵は，大学や大学院という山のてっぺんにあるのではなく，幼稚園の砂場に埋まっていたのである。私はそこで何を学んだのだろうか。」と記しています。そして，そこで学んだこととして，下記のことをあげています。

- ○ なんでもみんなで分け合うこと
- ○ 人をたたかないこと
- ○ 散らかしたら自分で片づけをすること
- ○ 誰かを傷つけたら「ごめんなさい」ということ
- ○ 食事の前には必ず手を洗うこと
- ○ 「不思議だな」と思う気持ちを大切にすること
- ○ ずるいことをしないこと
- ○ 使ったものは必ず元の場所に戻すこと
- ○ 人のものをとらないこと

「君子は義に喩り，小人は利に喩る」　これは論語の一節で，孔子の言葉です。

君子は，物事を判断する時にまずそれが正義にかなうかどうかを考えますが，小人はまず自分の利益になるかどうかを考えます。人の心は弱いので，つい利益で物事を判断してしまいがちだということです。
新渡戸稲造の「武士道」の中でも，武士の世界で勝つために卑怯な手段を使うことは義に反することとされており，義に悖ることをしないという生き方は忘れてはならないものだと言われます。

「何が正義で，何が卑怯なのか」については，「自分で作った物差し」で生きることができるかどうかにかかっています。子供たちは学校の勉強や学校生活，友達関係や様々な人との関わりを通して，この「自分の物差し」を作ろうとしています。そして，この物差しをそれぞれの子供たちに内在できるようにしっかりと形成してやることが，私たち大人の務めではないかと思うのです。フェアで生きる。自分の利益や打算を度外視して，正しい行いができる子供たちの心を大切にしていきたいと思います。

【１月24日 玄関にて】